

平成 27 年度 第 2 回安曇野市スポーツ推進委員会全体会 会議概要

- 1 会議名 平成 27 年度 第 2 回安曇野市スポーツ推進委員会全体会
- 2 日 時 平成 27 年 11 月 2 日 午後 7 時 00 分から午後 8 時 20 分まで
- 3 会 場 安曇野市役所本庁舎 共用会議室 305
- 4 出席者 丸山会長、塩原副会長、内川委員、逢澤委員、高沢委員、林委員、  
水口委員、二見委員、松田委員、布山委員、西沢委員、西沢委員、  
久根下委員、臼井委員、浅野委員、下川委員、加々美委員、中山委員、  
赤羽委員、遠藤委員、丸山委員、石田委員
- 5 担当課出席者 蓮井課長・久保田課長補佐・塩原主査・平林主事
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0 人 記者 0 人
- 8 会議概要作成年月日 平成 27 年 11 月 20 日

協 議 事 項 等

【協議事項】

- 1 平成 27 年度上半期スポーツ推進事業報告について
- 2 スポーツ推進委員の任期について
- 3 来年度市民スポーツ祭について
- 4 来年度スポーツ推進事業について
  - 子どもスポーツ部
    - 1 平成 27 年度上半期スポーツ推進事業報告について
    - 2 来年度スポーツ推進事業について
      - (1) 小中学校との連携
      - (2) スポーツ少年団活動への支援
      - (3) 親子スポーツ教室の開催
      - (4) 就学前の子どものスポーツ活動のきっかけづくり
    - 3 地域のスポーツ活動について（運動会等）
  - ビギナー・シニア教室部
    - 1 平成 27 年度上半期スポーツ推進事業報告について
    - 2 来年度スポーツ推進事業について
      - (1) 未経験者・初心者向けのスポーツ教室の開催
      - (2) 成人向けスポーツ教室の開催
      - (3) 一般成人男性向け教室の開催
    - 3 地域のスポーツ活動について（運動会等）
  - 健康・体力づくり部
    - 1 平成 27 年度上半期スポーツ推進事業報告について
    - 2 来年度スポーツ推進事業について
      - (1) スポーツによる健康、体力づくりに向けた意識啓発
      - (2) 体力測定の実施
      - (3) 歩くことから始める健康づくり
      - (4) 研究機関、専門機関との連携
      - (5) 健康スポーツ指導力の向上
    - 3 地域のスポーツ活動について（運動会等）

## 協 議 事 項 等

### ○スポーツ振興・交流部

- 1 平成 27 年度上半期スポーツ推進事業報告について
- 2 来年度スポーツ推進事業について
  - (1) スポーツを親しむイベントの開催・スポーツを通じた交流の充実
  - (2) 高齢者スポーツ活動の支援
  - (3) 障がい者スポーツの活動の充実、支援
  - (4) 競技スポーツ振興と指導の育成
- 3 地域のスポーツ活動について（運動会等）

### 【会議概要】

- 1 平成 27 年度上半期スポーツ推進事業報告について

[会議資料のとおり]

⇒ 意見なし

- 2 スポーツ推進委員の任期について

[会議資料のとおり]

⇒ 意見なし

- 3 来年度市民スポーツ祭について

[会議資料のとおり]

⇒ 意見なし

- 4 来年度スポーツ推進事業について

### ○子どもスポーツ部

#### 【要旨】

別紙資料の課題についてフリーディスカッション・意見交換

- 1 平成 27 年度上半期スポーツ推進事業報告について

#### 【主な意見】

[課題②]わんぱく GYM (ジム) 教室について、4 コースに分かれているが、1 コース

10 回 (1 人 10 回) のみであるため、本来の目的である「体を動かす楽しみ」

「運動を好きになる」を達成できているか疑問もある。(継続) について

- ・保育園後のため 1 時間が限度だと思う。堀金体操クラブは毎週木曜日に行っているが、そのような形で年間を通してやったら良いのではないか。単発よりは講師の顔を覚え、下の子にも繋いでいくことができる。しかし、年間を通してやる場合は講師の負担を考えなければならない。
- ・現在行っている程度の内容であれば、自宅でも出来そうな気がする。もう少しレベルアップした内容でも良いのではないか。親子ウキウキ体操教室のように 1 コース 20 回にして、内容も充実させてはどうか。
- ・教室で行った内容の成果を子どもたちが発表する機会があれば良いと思う。
- ・幼少期に体を動かすことは大事。親子体操からわんぱく GYM に繋げていくことが望ましい。

[課題③]ランニングクリニックについて、100 人の児童を 2 人の講師が指導することには無理があるのでは？ について

- ・1回のみの実施であるため、講師（補佐）の増員をしたら良い。人気の教室であるため、募集人数を減らしては意味がない。

[課題④]「コーディネーショントレーニング」派遣事業について、今後希望保育園が増えた場合、指導者が不足する」について

- ・継続しなければ意味がない。1回実施したら、その後は保育園の先生が講師として続けていけば良い。

## 2 来年度スポーツ推進事業について

### (1) 小中学校との連携（児童生徒のスポーツに親しむ機会）

#### 【主な意見】

- ・穂高西小学校はクラブ活動にスポーツ推進委員が講師として出ている。2回しかないため、楽しむ程度で終わってしまう。
- ・明科中学校の野球部は学校の先生が教えたり、社会体育として外部の人が教えたりしている。学校の先生やサッカーしかやっていない先生がテニスを教えている。
- ・豊科南中学校は社会教育として専門の人が教えている。（先生の転勤で変わってしまう。）

### (2) スポーツ少年団活動への支援（子どものスポーツ活動の機会の充実）

#### 【主な意見】

- ・明科地域は指導者が不足している。
- ・豊科地域は競技施設が足りない。20名程が新規入団したが、人数が多く、一度に全員で練習できない。
- ・明科の野球は親が監督をやっている。経験者がいれば良いが、いないとどうなるか。
- ・穂高地域は毎年役員（指導者）が変わっているが、役員の負担を少なくしてもらわないと、今後やり手もなくなるのではないか。

### (3) 親子スポーツ教室の開催（子供を通じた、家族向けのスポーツ教室）

⇒ 意見なし

### (4) 就学前の子どものスポーツ活動のきっかけづくり

（幼児遊びを通じ、体を動かすことの楽しさを味わう教室）

⇒ 意見なし

## 3 地域のスポーツ活動について（運動会等）

#### 【主な意見】

- ・明科地域は参加者が減っており、半日で終了してしまう程縮小傾向にある。得点競技は勝負に本気になりすぎてしまうので少なくし、運で勝てる競技を増やした。大玉送りが異様に盛り上がる。
- ・堀金地域は地区以外ではスポ少等の枠もあり、参加者はたくさんいる。堀金は分館対抗的な要素はなく、その種目で順位を決めるのみで得点もなく、もめることはない。
- ・豊科地域はオープン参加で企業も出ており、参加者は多い。
- ・穂高地域は参加者が減っており、13分館から12分館に減った。

## ○ビギナー・シニア教室部

### 【要旨】

別紙資料の課題についてフリーディスカッション・意見交換

#### 1 平成 27 年度上半期スポーツ推進事業報告について

##### 【主な意見】

- ・スマイルステップ教室は、1 期の参加者は 100%を少し欠ける程度だったが、2 期は昨年同様明科公民館で行ったところ、他地域で開催する場合と比べて参加人数が少ない。館長をはじめ、公民館側にも声掛け等ご尽力いただいているが、会場が明科となるとやはり難しく、参加者が少ないのが現状である。明科の公民館が新しくなる前は堀金で行っていたが、その際は定員に達しており、堀金公民館で開催予定の 3 期の参加者募集時には、定員 30 名のところ 40 名もの申込みがあった。每期継続して参加している人に加え、新しく参加する人も多く、参加者の受講率も高いため、昨年からクラブ化も考えている。一方で、参加者に意見を聞いたところ、市が主催の講座であるため参加できているのであって、謝礼や会場の確保等を自分達で行っていくのは難しいとのこと。会場の確保や費用、クラブを運営していく代表者の選出等難しい問題は多くあるが、実際にクラブ化を希望する声もあるため、来年度からそのような方向性でやっていきたい。来年度からすぐにクラブ化というわけにはいかないが、事務局とも協力して移行する準備を進めていきたい。
- ・ニュースポーツ教室は、申込み人数は多いが定員に達する程ではなく、教室当日になるとやはり参加人数は少ない。リピーターは数人で、初めて参加する人をどのように定着させていくかが今後の課題である。
- ・ビギナー・シニア教室に関しては、教室終了後はクラブ化に移行するのが理想だが、現実的にはいくつもの課題がある。何回かは市の事業として教室を開催、継続し、事業終了後に参加者が 100%に達しているような教室に関しては、代表者や会計担当、場所取り等、何人かで役割分担をし、代表者 1 人に負担がかからない運営方法を考えていかなければならない。会場の確保に関しても、使用料が安い施設に利用団体が集中してしまうため、減免等を受けられない場合は高い使用料がかかってしまい、クラブの会費も高くなる。
- ・普段スポーツをやらない人にどれだけ参加してもらうかが重要。今年度始めたアーチェリー教室のように、やったことのないスポーツを市の事業として定期的に取り入れていくような形も必要だと思う。継続性のあるものを自分達でどれだけ運営していけるか、競技性のあるものを団体としてどのように独立させていくのが課題。
- ・現在教室参加者へのアンケートで、「もしクラブ化したら参加できるか」「会費はいくらなら参加できるか」等の意見を取っている。全 10 回の教室の場合、教室の最終日(10 回目)ではなく中間時期(7,8 回目)にアンケートを取ることで、教室終了後の感想ではなく、やっている途中の意見を聞くことができる。参加者の声を聞きながら、様々な試みを途中途中でしていくのが理想。

#### 2 来年度スポーツ推進事業について

##### (1) 未経験者・初心者向けのスポーツ教室の開催(気軽にスポーツを楽しめるように)

##### 【主な意見】

- ・未経験者が興味を持つように、宣伝の仕方に工夫が必要。
- ・ニュースポーツ教室の中でも、ふわっとテニスを単体の教室としてやって欲しいという意見が出ている。
- ・年を重ねると、硬いボールのテニスやバレーボールはできないが、ニュースポーツで

あればできる。教室を通して新しい種目を見つけ、それが単独の教室やクラブ化に繋がれば良い。ふわっとテニスはニュースポーツ教室の実績の一つだと思う。

## (2) 成人向けスポーツ教室の開催

(仕事や家事などのスポーツ活動が難しい状況にある 20 歳～50 歳代のため、教室の開催日、時間に配慮し、魅力ある教室)

### 【主な意見】

- ・地域にもよるが、人口の多い地域であれば年代別に行った方が動きやすいこともある。場所も自宅や職場から近いところの方が行きやすい。継続してやっていくかは別として、模索する段階であれば、色んな場所や年代で絞ってやっていくのも良いと思う。スポーツの種類にもよるが、大きな体育館でなくても、各地区の集会場や公民館でできる、交通手段の少ない年配の人でも通える教室があれば良い。

## (3) 一般成人男性向け教室の開催

### 【主な意見】

- ・女性が多い教室に男性が来るのは、女性参加者も男性参加者も行きづらいため、男の料理教室のように男性限定でやってみてはどうか。
- ・三郷文化公園体育館にトレーニング室があり、現在そこで教室を開催しているが、「ボディシェイプアップ」という題名のせいか、男性 1 名、女性 19 名だった。やはり男性参加者を募るのは難しく、どのように集めていくかは今後の課題である。
- ・夫婦でウォーキングをしている人が非常に多いため、夫婦で参加できるような教室をやってみてはどうか。体操やストレッチ等は気恥ずかしいかもしれないが、ウォーキングレベルの教室であれば夫婦間で差が出ないため、良いかもしれない。
- ・40 代、50 代は野球やソフトボール等一つの種目をやるのではなく、トレーニング志向が強いため、スポーツジムに多くの男性が通っている。競技限定ではなく、トレーニングをやりたいという気持を持つ人は多くいるが、教室に参加する勇気やきっかけがないのではないか。

## 3 地域のスポーツ活動について（運動会等）

### 【主な意見】

- ・明科地域は参加者数が年々減ってきており、中でも子どもの参加者が少なくなっている。小中学生はクラブ活動が優先になるため、運動会と重なるとなかなか参加しづらい。
- ・豊科地域は今年参加者数が増えた。とびっくらに参加する小中学生がものすごく増え、その影響で、家族で参加する人が増えた。
- ・子どものかけっこで、その子が何秒で走れたのかタイムを口で伝えるだけでなく、記録を紙に書いて渡してあげると喜ぶ。
- ・子どもが参加する競技を増やせば子どもの参加者が増え、子どもの参加者が増えれば保護者等大人の参加者も増える。
- ・学校や保護者会、育成会等色々な所に声掛けをしないと、子ども達を集めるのは難しい。各地区の公民館に呼び掛けるだけでは集まらない。
- ・5 人以上でないと参加できない等の制限を設けず、少人数でも参加できる種目を取り入れていく必要がある。

## ○健康・体力づくり部

### 【要旨】

別紙資料の課題についてフリーディスカッション・意見交換

## 1 平成27年度上半期スポーツ推進事業報告について

### 【主な意見】

- ・他部署のウォーキングに関して、観光交流促進課では廃川敷を歩くようなものがある。生涯学習課の社会教育担当では堀金体育館を中心にインターバル速歩を行っており、こちらは来年度からスポーツ推進の担当になる予定。信州大学の教授に講師として来ていただき、松本大学と共同で何年か継続して行っている。
- ・合併以前、穂高町時代にもウォーキング教室を行っていた。春は町内、秋は町外に行き、市からバスを借りて安い参加料で開催したところ、抽選や先着順になる程大変人気があった。登山までいかなくとも、トレッキング程度で市外の里山を歩くような教室を新緑や紅葉の時期に開催すれば、個人ではなかなか行けないが教室であれば参加できるという50代から60代の人が集まるのではないかと。市内にこだわる必要はないと思う。
- ・らくらくスポーツカレッジではウォーキングの歩き方の講習会や、乗鞍での実践ウォーキング等、そのような教室を既に行っている。市内と市外セットで2回程開催するのが良いと思う。
- ・クラブ活動には繋がらなくても、山登りやウォーキングのコミュニティができるきっかけ作りになるような教室になれば良い。
- ・自宅近辺等、近場では運動意欲が湧かないのではないかと。ただ「歩く」という目的だけでは継続は難しい。道祖神を見て回る、昔の街道を歩く等、歩くことに加えて何か目的があると良いのではないかと。
- ・安曇野市内においても、ウォーキングコースをいくつか紹介するマップ等の作成も検討すべき。
- ・コーディネーショントレーニング教室はシニアを対象に行うのは難しいのではないかと。例えば、学校の体育や部活動の中に取り入れてもらうのはどうか。
- ・スポーツ少年団の各団体の指導者は、指導の中に必ずコーディネーショントレーニングを取り入れるよう義務化する等、何か工夫しなければ普及しない。

## 2 来年度スポーツ推進事業について

### (1) スポーツによる健康、体力づくりに向けた意識啓発

(健康づくりの観点から見たスポーツ教室の意義など、健康とスポーツのかかわりを市民に対し広く周知するとともに、健康づくりに対する正しい知識の普及)

### 【主な意見】

- ・広報でスポーツ特集を組む等、より多くの人に周知する工夫が必要。
- ・コーディネーショントレーニング等聞き慣れないものよりは、バドミントン等、多くの人が親しみやすい種目の教室を行った方が良いのではないかと。
- ・シニアが対象であれば、松本市の熟年体育大学のような企画を打ち出してはどうか。
- ・松本市のように、市民は手軽な料金で多種多様な器具を利用できるトレーニングルームがあれば理想。常駐の指導者がいる施設があると良い。古い器具だけでは、利用者は増えない。

### (2) 体力測定の実施

(体力測定をあらゆる機会に実施し、健康・体力づくりへの関心を高める。)

### 【主な意見】

- ・今回は文部科学省からの依頼があり行ったが、体力測定を単発で行うのは難しい。
- ・開催した後、測定結果からもう少し詳しい評価を一人ひとりに通知すべき。結果から今後どのように改善すべきか、アフターフォローになるような教室を開催してみ

てはどうか。

(3) 歩くことから始める健康づくり

(市民が気楽にウォーキングが楽しめるようなウォーキングマップの作成や、歩くことによる健康づくりの普及啓発事業)

【主な意見】

- ・マップのチェックポイントを全部回ると特典が出る等の企画をしてみてもどうか。
- ・ウォーキングと一口に言っても、インターバル速歩と散歩のような普通のウォーキングとでは異なるため、両者をはっきり区別し、対象者や目的を明確にして行う必要がある。

(4) 研究機関、専門機関との連携

(医療機関や大学のスポーツ研究機関などとの連携により、健康・体力づくりに関するスポーツプログラムの充実)

【主な意見】

- ・松本大学と提携してはどうか。

(5) 健康スポーツ指導力の向上

(市内のスポーツ指導者の指導力向上を図るため、各指導者や学校、企業、民間スポーツクラブ、保健、福祉、医療機関などとの連携による研修会の開催)

【主な意見】

- ・スポーツ少年団の認定指導員のカリキュラムの中に、安曇野市独自のものとして、コーディネーショントレーニングを義務化する旨を入れてはどうか。
- ・木曾町では、コーディネーショントレーニングという名称ではないが指導者を幼稚園に派遣し、体育の授業のように定期的に教室を行っている。松川村では、保育園に週に何回か指導者を派遣して行っていて、小学校に上がる時点で既に逆上がりやとび箱、なわとび等ができるようになっている。

3 地域のスポーツ活動について (運動会等)

【主な意見】

- ・穂高地域は、全地区の半分程度の参加率しかない。来年はもっと少なくなる恐れがある。
- ・昔に比べて、運動会が特別な行事ではなくなっているように思う。仕事や部活動、クラブ活動が優先になり、なかなか練習や運動会に参加しづらいのではないか。

○スポーツ振興・交流部

1 平成 27 年度上半期スポーツ推進事業報告について

【主な意見】

- ・松本で毎年 10 月に行われている障がい者スポーツの大会をまず見学、体験してみるのはどうか。
- ・障がい者スポーツの指導者資格を取りたい。有資格者からの情報や、資格の取り方を聞きたい。

2 来年度スポーツ推進事業について

(1) スポーツを親しむイベントの開催・スポーツを通じた交流の充実

(健康づくりを推進していくため、参加しやすいスポーツイベントの開催)

【主な意見】

- ・時期を問わず、教室を 2,3 ヶ所で行うのはどうか。その場合の教室開催の周知の方法は回覧が良いと思う。

(2) 高齢者スポーツ活動の支援

【主な意見】

- ・ポールウォーキングの講習会自体、大都市でしか行っていない。スポーツをする場所や機会を求めている人は多くいるため、どんなスポーツが自分に向いているのかが分かれば、単純なウォーキング等、道具がないスポーツの方が良いのでは。
- ・各地域の老人クラブで何か事業を行ってみてはどうか。

(3) 障がい者スポーツの活動の充実、支援

(スポーツ活動の場所の確保やスポーツに参加できる機会の増加に努める)

【主な意見】

- ・車椅子バスケットを小学生に見せて経験させる教室を行ってみてはどうか。(太田さんに行ってもらおう。)
- ・スポーツ推進委員が障がい者スポーツについてあまり知らないため、知る機会が必要ではないか。
- ・スポーツ吹き矢は障がい者の方も多くやっている。委員が資格を取り、指導者として教室を行ってみてはどうか。スポーツ推進委員が資格を取り、講師として教室を開けば良い。

(4) 競技スポーツ振興と指導の育成(大会参加への支援・指導者の育成)

⇒ 意見なし

3 地域のスポーツ活動について(運動会等)

【主な意見】

- ・競技種目のマンネリ化が問題。小中学生が集まらない。
- ・三郷地域は運動会を三郷文化公園グラウンドで行っているため、同日に体育館で文化祭の展示を行えば、話題性があり、運動会の参加者も増えるのではないか。(運動会後に文化祭の展示見学を見て帰るという流れを作る。)